



あ、自分にもできる（親近感）活動があるかもしれない（興味・関心）参加してみよう（行動）
そんな会員向け通信を目指しています。

牧野篤著『「ちいさな社会」を愉しく生きる』感想 岩林誠（1458）

私自身、千葉県四街道市シティセールス推進課長という立場で市民協働事業をマネージしていたこともあり、牧野篤先生の近著は強いリアリティを感じるものでした。前著『発達する自己の虚構』（2021年、東京大学出版会）で展開された、産業社会を前提とする「一貫して発達する自己」とは本来虚構であるという問題提起から、本書ではその先に進むための示唆を四つの事例とともに示しています。「おおきな」産業社会と距離を置き、「自分がやりたいこと」を主体的に実践することの大切さ。そして、コミュニティよりもさらに「緩やかに、人々が関心を持ちあって、どこかでつながっているような、『ちいさな社会』」に生きる意義が丁寧に説かれています。地方創生の今後のあり方、高齢者にとっての「<老い>を豊かなものにかえていく」 ヒントがここにあります

編集部より

牧野篤著『「ちいさな社会」を愉しく生きる』は著者のご厚意で、2割引き 1408円（税込）で購入可能です。ご希望の方は7月15日までに下記編集部までご連絡ください。

◆ ◆ 私の推し街 連載 ◆ ◆

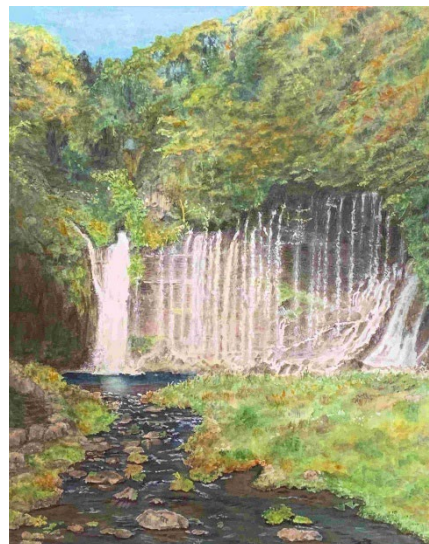


時々刻々変化する景色
静岡県富士宮市

関口 洋一 (1100)

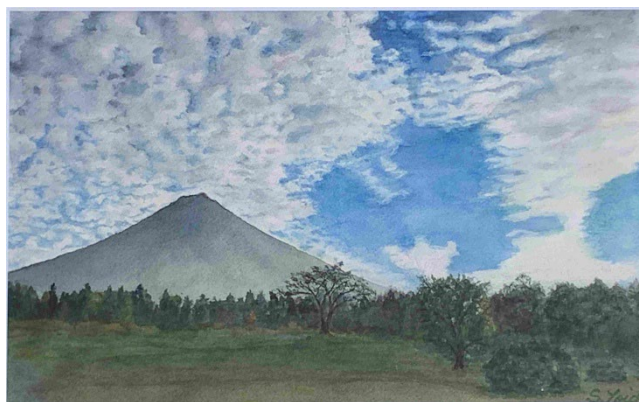
富士宮市は、富士山観光拠点の一つ。

40年以上前になりますが、資源開発大学校へ派遣され、非鉄金属資源開発の海外人材教育研修を受けました。非鉄8社、工業協会、商社の方々と8人ほどずつドミトリーに分かれ、ほぼ1年間をすごした所です。休みの日には、周辺の観光や食事など、思い返せば夢のような時間を過ごしました。



白糸の滝 富士宮 水彩 絵 関口洋一

富士山（周辺）観光でお勧めしたいのは、是非ゆっくりとした旅程で宿泊されて、早朝から夜中まで、時々刻々の景色の変化を堪能することです。特に、富士山にかかる雲の変化、澄んだ空気、都会とは違う音の変化も心にしみます。



富士山 早朝の雲 水彩 絵 関口洋一



本部便り

《読者の声》

6月16日配信（第4号）『私の生家の再生による故郷への恩返し』に感想をいただきました。

総社市の素晴らしい取り組みを読ませていただき、ありがとうございました。私も実家の土地建物に長年悩んでいます。ますます過疎の町になりつつある矢掛町小田で相続した家は、長年再利用、売却が進みません。そんな時記事を読み、人がたくさん集まり、お互いに高めあえることは最高だと思

いました。 黒住行江（1496）

地方の実家再生は、個人の課題であると同時に地域にもつながるテーマです。同じ悩みを持つ会員も多いかもしれません。地域デザイン本部としても今後このテーマを検討したいと考えております。

問い合わせ先：ご意見、感想、お問合せなど下記までお寄せください。お待ちしております

dfchiiki-tsushin@directforce.org

編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

故郷にある実家をどう処分するかは、多くの DF 会員が直面する共通の問題と思います。会員の皆さんの経験や知恵を参考にできるような仕組みができればいいですね。（編集後記 ○）

地域デザイン通信 バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/>
ページの一番下までスクロールしてください。